

自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)



# ひびきあい Hibiki Ai

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&FAX072-687-0548

## 予防医学のススめ (新型コロナウイルス感染症に学ぶ)



聖ヨハネ学園  
産業医  
仁科 昌久

令和2年は、まさしく感染症に世界中が動かされた年となりました。新型コロナウイルスという未知の感染症のため、専門家ですら意見に相違があり、一般人としては、ただただ恐怖感だけが先行してしまい、感染症への中傷や非難が問題となっています。

しかしながら、よくその感染症の事象を観ていますと、若い人の多くは感染していても、無症状か軽い風邪程度で終わり、高齢者や病気を既に抱えている人は重症化しています。同じ人間であっても何故このような違いが出現してくるのでしょうか。

実は、この疑問を最初に抱

き、そして解き明かすことで、かつて100年以上前に世界中で大流行していた感染症である結核を治した医学者がいました。彼の名前は、米国のチャールズ・エドワード・ウインスローという人物で、当時は肺病といえば結核で、死の病とも言われた感染症でした。日本でも、正岡子規や新選組の沖田総司も、皆、結核に感染して死んでいきました。誰しもが結核の治療薬を發明しようとして、研究に没頭していたのです。しかしながら、この当時にはまだ抗生物質はなく、すべてが無駄な研究に過ぎませんでした。しかし、ウインスローは、結核の薬を考える前に、その実際に感染している患者さんの事象に注目しました。そして、解ったことは、結核菌が存在しているだけでは結核を発症していかないということでした。彼は、

ケースでは結核菌だけでは発症せず、その人の持っている体力、免疫力、即ち宿主の問題、そして発症を助長する環境衛生の問題という三つの条件が揃って、初めて病気が成立するということを発見したのです。即ち、この中の一つの要素でも欠ければ病気にはならないということを見つけたのです。そして彼はアメリカの保健省と協力して、結核患者の多発している地域の密集住居の再開発、上水道、下水道の完備といった環境衛生の改善に取り組みました。この結果、その地域からの結核患者は完全にいなくなつたのです。実は、これが今の予防医学の原点になっており、公衆衛生学の基礎となっている内容なのです。

一般的に若い人が新型コロナウイルス感染症に罹患しても軽症で、老人や身体上に基礎疾患がある人が罹患すると重篤化するというのは、その人の持っている体力、免疫力といった宿主上の問題があるからです。

(二ページへつづく)

(一ページからつづく)

若い20代の力士さんでも、基礎疾患があり治療せず放置しておれば、残念ながら感染した結果、死亡されています。

平素より私達は、身体と精神を鍛えつつ、周囲の環境状態を良くしていくことが、あらゆる病からの防衛の原点となっていくことに、今一度、認識していく必要があるでしょう。幸いにして、日本人は全て健康診断を受診できているのですから、その結果に従って精密検査や治療を行っていくことにより、体力や免疫力を維持することが出来ます。年を取れば取る程、この健康格差が広がっていきます。平素より予防医学に徹し、早めに防護していくことが、高齢者となっても、病いを跳ね返すだけのパワーを持ち続けることができるのです。死を覚悟するように努めては遅い。生きていくことに最大限、幸福が感じられるような生活を送られる人生を築き上げて行く時は、そう、今でしょう。



聖ヨハネ学園創立130周年記念 法人セミナー講話

## 「学園 歴史の担い手

### 古田誠一郎園長物語」その③



司祭 ペテロ竹林徑一

前回は、大阪・細工谷から、学園の現在所在地、高槻市宮之川原への移転までを記しました。その詳細な事情は今後の調査を待たねばなりません。太平洋戦争の雲行き悪化を案じた大阪聖ヨハネ教会の男子三人組《古田園長、藪内正信(藪内時計舗社長)、山田元次(山田貿易社長)》が、適当な疎開地を一刻も早くと探し求めて、土曜日毎に弁当持参・ゲートル巻き姿で高槻方面へ出掛けていたことを、息子の藪内正明さん(学園理事)が憶えて証言しています。契約寸前に近隣からの猛反対に遭い、断念する苦汁を舐めた経験もしています。

結果的には、1936(昭和11)年にすでに購入をしていた高槻北部の土地13000坪を活用することに落ち着いたようです。全くの山間部で、キャンプ野営地として利用を始めた場所ですが、戦後の昭和30年代まで、山水を貯め濾過して飲料にしていたのです。園内には150坪程の池があり、釣りや、筏を作つて舟乗りを楽しんだそうです。孟宗竹の竹林、梨・柿・桃の畑、安岡寺の松茸狩りなど、今では想像も出来ない自然環境でした。また、学園児を夏期長期に亘ってキャンプ生活を経験させてきたのは、保育機能に優れた施設での快適な都市生活から、意図的に切り離して、厳しい自然条件の中で生き抜く生活力を身に付けさせ、主体的に暮らす狙いもあったのではないのでしょうか。高槻への段階的、そして全面移転には、古田の深謀遠慮が感じられます。いずれにしても、

交通不便な山中で、自給自足に近い窮乏した疎開集団生活が行なわれたと考えられます。

古田は、昭和12年に京都鷹峯にある聖公会の障害児教育施設「白川学園」の後継園長で、親しかった脇田悦三に近くの山林地を斡旋・購入の世話をしています。豊かな自然の中で、生活を通じた全人的福祉教育の実践・協働を、共に夢見ていたのかも知れません。

不便な山中に資材を運び込んで建築された粗末な施設が一応完成し、疎開移転したのが昭和19年、敗戦の1年前でした。やがて空襲など深刻化する戦争の脅威から園児たちを守るだけでなく、敗戦後は収容能力をはるかに超えた働きを迫られています。

1945(昭和20)年8月15日、ポツダム宣言を受諾し、日本は敗戦して連合軍の占領下、混乱と復興の時代に入りました。

「戦後70年」を節目に、最近、戦争被害の補償と謝罪の問題に種々の脚光が向けられています。私は以前、元聖ヨハネ学園長の伊藤昭さん(昭和33〜63年在職)から、大阪在住の作家、難波利



恩師と久しぶりに再会した山本登司祭ご夫妻

三が書いた小説「大阪希望館」(光風社書店刊、1978年)を薦められて読みました。戦争中から戦後にかけて街頭に放り出され浮浪児と呼ばれた「戦争孤児」をテーマにした本で、大阪の施設の一つ「梅田厚生館」をモデルに描かれ、当時の様子をまざまざ、生き生きと偲べる貴重な読み物です。

1948年公表の「全国孤児一斉調査」では、12万3511人、1948年末時点の孤児収容施設数268(公立は38)、入所者は約1万2千人とあります。

戦時中から敗戦混乱期のこういう状況の中で、次々と収容されてくる子供たちへのケアの実態や、古田をはじめ聖ヨハネ学園(当時は高志学園)の職員がどのような暮らし方をしていたのか、食糧他の調達、どのような思いで過ごしていたのかを知る手掛かり・生きた資料が切望されます。

地元高槻出身の山本登青年は、終戦直後に紹介を受け、高志学園(聖ヨハネ学園)に就職、古田の指導を受けながら、戦災孤児を中心とする世話・指導に追われる日々を過ごし、大阪聖ヨハネ教会の信徒になります。やがて、古田園長から聖職・牧師を目指して学ぶように勧めをうけて大阪の桃山神学校入学、学園に職員籍を置いたまま、教役者への道を歩きました。石橋聖トマス教会・川口基督教会牧師、聖公会大阪教区重鎮として活躍された山本登司祭の誕生、また教会のボイスカウト活動等にも、戦後復興と社会・教会を担う次世代の育成と

いう古田が抱いていた使命感、貢献の足取りが辿れるように思えます。

敗戦後の混乱期の高志学園(聖ヨハネ学園)の状況を知る資料はほとんど無いのですが、「古田誠一郎氏遺稿集」には短くこう書かれています。「聖ヨハネ学園は、当時他の同種施設が他府県へ疎開したり、一時閉鎖したりの事情で、急増して全国一とも言われた浮浪児を曾根崎署から続々送致されて収容した。」また、古田が書いたと思われる1949(昭和24)年5月の「学園記録」の将来展望の文を、後の園長・伊藤昭が原文のまま、引用・紹介しています。「現代社会福祉の源流―日本聖公会社会事業史―【日本聖公会社会事業連盟編】1988年」P. 30(31、《資料参照》)

浮浪児収容の実績が目されたのか、天皇が戦後初めて京都に駐輦した際に、大阪府知事の推薦で、関西における児童保護(現在の児童福祉)について古田が進講する光栄に浴することになりましたが、その内容は「雲上の哲学」という文に記されています。

古田は福祉事業の復興・新展開に忙しく追われながらも、外部の活動にも積極的であったようです。全国私設社会事業連盟理事長の丸山鶴吉が公明選挙運動を開始し、その傘下の事業者たちと協力活動に加わる内に、古田は1947年春の高槻市長の第1回公選選挙で、5人の候補者の一人に担ぎ出されることになりました。

彼がそれまでに築いてきた広い人脈が、ここに来て大きな後押しとなったようで、ボイスカウト日本連盟総長の三島通陽や、児童文学者・久留島武彦、童話教育研究会の仲間など多くの支援も手伝って、決戦投票の結果最初は思いもしなかった、第3代高槻市長に当選しました。「子どもと語る」の同志の一人、小川格は会社社長を辞して、高槻市助役として支えました。

高槻市史の歴代市長紹介には、以下の様に記されています。

\*古田市長は、戦後の最も苦しい時代に、およそ3年市政運営に当たったのだが、治績としては、「市歌制定」が残っ

ているのみである。暗い、明日に希望の持てない、食うことで精一杯だった時代に市歌を作り、少しでも市民の心を明るくしようとしたものであろう。

\*古田市長は、経歴の示すとおり、少年の指導・保護、社会事業に生涯を捧げた人でもあり、キリスト教社会主義を信奉した(?)。人道的立場からも、戦争には反対であったに違いない。いずれにしても、戦後の民主化がGHQから次々と発せられる中で、さまざまな対応を迫られながら公選市長としての職務を果たし、バトンを阪上4代市長に引き継いだ。

古田は、アメリカの「少年の町」で著名なフラナガン神父との交流や、ボーイスカウト(BS)運動の再建に努めていましたので、やがてBS日本連盟を再建するための総元締になってほしいとの要請を受け、市長辞任を巡って大いに悩んだようです。たまたま高松宮の声掛かりによって、市議会の同意を得て、1年余の任期を残して高槻市長を辞職す

るに至りました。

本人の言葉では、市長就任時に聖ヨハネ学園には実務後継者をこしらえておいたようですが、学園園長や桃山学院の理事など大半の役職を辞して、(財)ボーイスカウト日本連盟総主事総局長に就任し、それまで関わってきたことから離れていきました。なお、聖ヨハネ学園の理事は、少なくとも1952(昭和27)年までは継続しています。園長離任以後、住居は東京に移り、大阪聖ヨハネ教会の信徒教籍は、1966(昭和41)年4月5日に、東京教区練馬聖公会へ移動転会となつています。

その後約40年の後半生は、ここでは取り上げませんが、BS、赤十字、放送タレントなど多様な活動をしたことがわかります。1981(昭和56)年9月23日には、プール学院清心館で大阪教区成立60周年の盛大な教区礼拝を捧げた後、大阪聖愛教会BS第87団の発団20周年も兼ねて、古田の記念講演会が持たれました。「信仰に基づくスカウト活動について」、高齢にもかかわらず熱情溢れるスピーチを行ない、聴衆に深い感銘を与えたということです。

## 資料 「現代社会福祉の源流」より

主若し許し給わば必ず為し遂げやうとの日頃の夢は以下のやうなものであります。

約13、000坪の比較的広大な地所を有しながらも、現在にてはその20分の1に当たる約64坪のみ使用されてゐるに過ぎず、他は全く未開拓の儘で放置されてあるのであります。

故にそれらを開發して第一に望むことは、移築以来の強い念願である信仰的集会に必要なチャペルの建築である。何よりも最初に建つべきものの、まだ出来

て居らぬ理由は、戦争中の移築で収容者の居室の建設に追はれてゐた為であつて、これ無き為に収容中の児童の精神的教育において、キリスト教社会事業の尊い特色を發揮することが出来ず、わずかに土曜日の夕毎に食堂等を用いてSunday Schoolの如き集会を持って居るものの、環境に支配され易い子供達に対しては十分な靈的雰囲気を与え得ず遺憾に堪へない次第であります。

次に、第二として望むことは、

伸びゆく子供達に充分にして健全なる娯楽(Sports)を与えるために、是非とも必要な運動場(広場)の設置である。これを持たない為子供達は狭い室内で不満足な日々を送つて居るのであります。

以上二つのHopesは、(1)を精神的指導に必要なものとすれば、(2)はそれに平行する肉体的指導に必要なものであつて、この二者何れも緊急切実にその実現を願うものであります。

扱て、それらに続くHopesは、第三に30名収容の女兒園舎。婦人の徹底的民主化こそ、新しい日本を築く礎でなければならぬのに、現在の園児舎では女兒に對して将来の良き主婦を教養する特別の設備が無いのでどうしても女兒専用の園舎が欲しい。第四は保育所の建設。当学園の所在する大阪府郊外高槻市には、これに類する施設としては唯一つの幼稚園の他は全く設けられて居ない故に当学園に於いてこの施設を持つて付近の幼児達を自然の良い環境の中に引き受け

て育て上げたいのである。  
処でこれらの欠くことのでき  
ない拡張設備の願ひも、法的に  
支給される僅少な収入と限られ  
た額の共同募金とだけでは、夢  
はいつまでも夢に終わるであり  
ませう。

夢を実現と為し給ふ大能の主  
に総てを委ね奉る。

(昭和24年5月当時の

学園記録より元文のまま)

「現代社会福祉の源流」

P 30 ~ P 31

▼今号では、「コロナ禍で生ま  
れた笑顔」をテーマに、現場  
スタッフに聞いてみました。

## 聖ヨハネ学園

コロナウイルスの影響で臨時  
休校、外出自粛の中、なにかで  
きないかと子どもたちにアイデ  
アを募集したところ、「運動会  
をしたい！」と、中2の女の子  
が言ってくれました。その日に  
手書きの企画書が完成。5月5  
日にヨハネ子ども大運動会開催。  
プログラムは、借り人競争、大

縄などあまり走らない競技が中  
心でした。それには、幼児から  
高校生まで、年齢に関係なく楽  
しめるようにという配慮があり  
ました。50人以上の子どもが集  
まり、彼女もスタッフをしなが  
ら競技に参加。大成功と満足気  
でした。来  
年もまたや  
りたい、み  
んなで応援  
しあえる空  
気を作りた  
いと意気込  
んでいます。  
自然と笑顔  
が溢れてい  
ました。

(保育士)



## 下田部保育園

新型コロナウイルス感染拡大  
に伴い、感染症対策に十分配慮  
しながら、子どもたちの最善の  
利益を第一に考え、職員一丸と  
なり保育に勤めてきました。  
年間行事の中には、対策を考  
えた上で開催が難しい行事もあ

りましたが、年長組の「お泊り  
保育」は園内で取り組める活動  
を考え、行うことが出来ました。  
担任、看護師、他保育士と相  
談し、園内でも思い出に残るも  
のをと考え、「お化け屋敷」「夏  
祭り」などを盛り込みました。

おばけを怖がり泣いてしまう子  
や、怖がる友だちをかばってお  
ばけに立ち向かう子、夏祭りの  
ゲーム「コイン落とし」で一喜  
一憂する子など、子どもたちの  
表情は、どの場面でも輝いてい  
ました。お泊り保育を通じて、  
思いやる心や協力する大切さを  
知り、10月に行われた「体育遊  
び」でもみんなで力を合わせ、  
色々な競技に取り組むなど日々  
成長しています。まだまだ油断  
はできませんが、子どもたちと  
ともに笑顔で乗り越えていきたく  
と思います。

(保育士)

## ミス・ブール 記念ホーム

ミス・ブールでは、コロナ禍  
の影響で中止となった夏祭りの  
代わりに、施設内の行事として  
スイカ割と花火をソーシャルディ

スタンスを意識しながら行いま  
した。スイカ割会場は、お祭り  
の雰囲気を少しでも出すために  
かき氷や綿菓子などの出店の他、  
飾りつけ、祭囃子を流すなどの



工夫をしました。自ら手拭いをかぶり祭囃子に合わせ踊り出しているご利用者や、かき氷を3杯も食べているご利用者もおられました。美味しそうに食べる姿やスイカ1玉持ち上げた時の反応、浴衣を着ている際に見られた嬉しそうな表情。ご利用者職員共に笑顔が多くあり、レクリエーション等を行うことが難しい状況の中、開催でき楽しいひと時となりました。(介護職)

## ゆう・あいセンター

ゆう・あいセンターの「デイ教室」で働いています。障がいのある方々が仲間とレクリエーションに取り組む場です。「カラオケ」や「クッキング」など、ニーズの高いレクリエーションがコロナの影響で出来なくなりました。対策も色々しましたが、飲食時にマスクを外すので、卓上に透明のシールドを立てて個別の空間を作りました。そのスペースが自分だけの空間なので、ほっこりと落ち着いておられるご利用者の姿が透明のシールド

越しに見え、今まで気付かなかったご利用者のニーズに触れた気がします。これは、手話通訳さんから聞いたお話ですが、以前は多くの方々が一堂に会し、賑やかな反面に実は面倒なこともありました。コロナ禍で人数制限されるようになり、あまり人に会えなくなりました。みんな実はさみしかったのだということを実感されたそうです。(デイ教室支援員)

## うの花療育園

感染症対策で、生活環境や行事の見直しを行なった結果、思わぬ効果がありました。例えば、年度初めの一日おきの分散登園は、少人数でゆったりと使える環境が、新入園児には安心でき、登園のペースも丁度良いものでした。登園しない日に様子伺いの電話をしたことで、家での様子だけでなく、不安や相談事も話されるようになり、保護者も新任の信頼関係の構築に繋がりました。夏祭り等、季節行事を日常の設定に盛り込み、いつ

もの流れの中で経験できるようにすると、子どもたちにはたくさん笑顔が見られました。また、職員もゆとりを持って対応できました。日々の手洗いと消毒の徹底で、感染が原因の症状はほぼ見られませんでした。給食については、感染症対策と食育の兼ね合いに試行錯誤しながら、協議し、工夫を重ねている所です。今後も安心安全な生活を重ねていけるよう、現状の取り組みを続けていきたいと思えます。(心理職)

## 地域生活支援センター光

先行きの見えない4月、予防のために光のご利用者は楽しみだった外出や買い物も制限され、フラストレーションが溜まる様子が顕著にみられていました。その状況下において、コロナ疲れを癒すイベントとして、事務所主催の買い物レク「ワゴン販売」を実施いたしました。普段入用な日用品や衛生用品やお菓子等、それと花の会さんのクッキー類を可愛くワゴンに陳列し、

販売しました。事前告知から楽しみにされる様子が見られ、当日も大盛況。その後しばらくはこの話題を中心にとっても朗らかな表情を見ることが出来ました。このほど5回目の販売を実施。余れば職員もクッキーを購入したりと、このコロナ禍で今や光全体の楽しみのひとつになっています。(生活支援員)



## 聖ヨハネ子どもセンター

感染拡大防止対策として、第2めばえ教室でも非接触体温計を使用し始めました。ご利用者の方が来室されたら、まず体調

## 理事長の目々

理事長 野知卓司

をお聞きし検温させていただいています。ある日、看護師が休みになり、別の職員が対応することになりました。体温計の使い方はしつかり練習したので次々来室されるご利用者の方々にも対応することができ、ほっと一息ついてしているとAくん親子が来室されました。「お熱、ビツさせてね」と言うとAくんは前髪をかきあげてニコニコ。(さっきまでの要領で...)と体温計を近付けると、赤く光ってエラー。「ごめんね、もう1回いい?」と近付けるとまた赤。あれあれ?と焦って測るとまたまた赤。

「おかしいな?」と職員が焦っているAくんも一緒に首をかき上げてくれています。落ち着いてよく見ると:Fタが閉まっています。「フタしたままだった、ごめんね」と職員が平謝りすると、お母さんと一緒にAくんも大笑いしてくれました。職員のかな失敗に笑ってくれて、Aくん、お母さん、ありがとうでございます。(言語聴覚士)



2020年度も7カ月を経過しましたが、年初来の新型コロナウイルス感染拡大がなおも続いており終息の目途が見えない状況の中、何よりも各施設のご利用者・職員を感染から守ることが喫緊の課題であり、そのための抜かりのない継続的な対応・対策を最優先してきました。幸い法人全体で一人の感染者も出さずに経過しています。このための全職員の心身両面での負荷は大変なもので、その中での奮闘・努力に敬服し感謝しております。

安全衛生委員会は三密に十分配慮して実施し、法人の運営に支障をきたさないようにしています。

急速に進む少子高齢化や高齢独居所帯の増加・子供の貧困化、児童虐待の増加等に加えて、コロナ禍による失業で生活困窮者増加等々の社会の歪へ対処するのは社会福祉事業であり、これからの日本社会になくしてはならないエッセンシャルワーク業界と位置付けられる一方で、採用難による介護職の人材不足がますます顕著となっております。近い将来の介護事業者の状況が心配されます。小規模で単一事業の多い社会福祉法人において連携や協働化を推進する「社会福祉連携推進法人」の創設を含む社会福祉法の一部改正がさる6月に成立し、2021年4月1日から施行されるようです。

10月24日に今年度第4回目の安全衛生委員会を行いました。17人ほどの参加者はマスクを着用し、換気の良い部屋で2メートル位の間隔で座って、充実したアジェンダを準備して約1時間でご会議を終えました。2月から隔月で行ってきた委員会はこ

の形をとり、従来からのテーマ「腰痛対策」「自転車事故撲滅」「メンタルヘルス」「効率化」に「新型コロナウイルス対策」を加えて情報交換を行ってきました。特に検疫官の経験をされた仁科ドクターから毎回貴重な知見を教えていただき、疑問や質問にお答えいただいたことは法人全体の対応に大きな力となったと思います。10月25日の新聞報道では国内感染者が新たに731人、大阪府内では96人とまだまだ油断できない状況です。安全衛生委員会では昨年からの自然災害被災時のBCP(業務継続計画)策定に取り組んでいます。今年度は急遽感染症の発生に備えたBCP策定を各施設にお願いし現在2施設から報告されています。

全施設がこれまでの体験を基にガイドラインを参考にした形で策定し全員に周知徹底するよう改めてお願いしました。たとえ感染が現実のものとなっても慌てることなくきちっと対応できる体制を作っておかねばなりません。コロナ禍を乗り越えて前進しましょう。

## ○チャプレン室からのたより

### 同時代に生きた2人の宣教師の航跡を偲ぶ

ジョン・マキム主教(1852・7・17-1936・4・4)と  
 リーラ・ブル先生(1846・3・15-1924・3・20)②

チャプレン 司祭 ショーシ林 正樹

1887年、日本聖公会第一総会が開催され、日本聖公会が組織されました。翌(1888)年5月13日、婦人宣教師リーラ・ブル師が来日、大阪に着き女性の学習機関「婦人学習会」の教師を務めた。大阪聖約翰(ヨハネ)教会、川口基督教教会、大阪聖保羅(ばうろ)教会においてこの指導に当たりました。1989年10月、大阪聖ヨハネ教会婦人会は、プール宣教師の強い意志で、慈善市(チャリティ・バザー)を開き、収益金を資金の一部として孤児院(貧院)が設立されました。1905年には大阪市細工谷(現在の天王寺区日本赤十字病院)に移転、社団法人「大阪約翰(ヨハネ)学園」と改称した。これが現在の聖ヨハネ学園の



リーラ・ブル先生

また1891年には聖提摩太(テモテ)教会・聖慰主教会、2つの教会が合同して川口基督教教会に発展しました。当時の背景には一時の西欧文明への気運が薄らぎ、不平等条約への反感もあり、キリスト教への興味は低下し教勢不振に陥った事情も考察されています。実際にディング・マキム二人の司祭で2府4県(奈良をのぞく)の10教会、14講義所、4施設を司牧管理しており、日本人伝道師19名も経験が浅く、全般的に手薄であったことが要因であると考えられています。

1892年、ウイリアムス主教の辞任後、2人のアメリカ人司祭が日

本伝道教区主教に選ばれましたが辞退、マキム宣教師(当時、聖慰主教会牧師)が日本伝道区主教に選任されました。翌1894年6月、ニューヨークの聖トマス教会において主教接手を受け、第二代「江戸監督」となりました。

1893年6月には北関東教区地方部主教に就任、立教大学理事長として学校経営に貢献されました。この間、関東大震災、日清戦争を経験、戦時色が濃厚になる中で、1935年6月5日大阪中央公会堂で「大阪教区成立記念礼拝」が挙行されました。そして11月17日に55年間の日本での宣教活動を終え帰国されました。この間、関東大震災、日清戦争を経験、戦時色が濃厚になる中、高齢(83歳)を迎えていた、ホルルで静養されていました。1936年4月4日に84歳で逝去されました。美声美調は有名で、聖霊を求むる歌での先唱は素晴らしいものと伝説になっていました。

非営利組織の宣教する教会として、基本となるものはミッシヨンと事業展開。まさに現代においても、時代を超えて、初期の日本のキリスト教宣教において行われた同様のこと「福音伝道」(ミッシヨン)と「自給の教区」(事業展開)が中心に据えられるのではないのでしょうか。今年は、宣教150周年、聖堂聖別

100周年、主教座聖堂指定70周年を迎えて、「福音にふさわしい生活」を实践するようお願い祈ります。

〈参考文献〉

『あかしびとたちー日本聖公会人物史』(日本聖公会歴史編集委員会編1974)、『日本聖公会宣教150年の航跡』(浦地洪一司祭編、日本聖公会管区事務所2012)、『日本聖公会川口基督教教会百二十年のあゆみ』(百二十年史編集委員会編1992)の3冊を参考にしました。

社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548

- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
- 下田部保育園 (保育所)  
 〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
- ミス・ブル記念ホーム (特別養護老人ホーム/デイサービスセンター/ケアプランセンター/ヘルパーステーション/地域包括支援センター/エンゼル園)  
 〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
- ゆうあいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援事業Ⅱ型・特定指定相談支援事業)  
 〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
- うの花療育園 (高槻市指定管理者事業・児童発達支援センター)  
 〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
- 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設/放課後等デイサービス)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
- 聖ヨハネ子どもセンター (高槻市乳幼児療育事業受託/児童発達支援/放課後等デイサービス事業/障がい児相談支援事業)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722